

なばり

2010年(平成22年) 8月8日発行

発行/名張市企画財政部広報対話室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1
☎0595-63-7402 ㊚64-2560 ㊗info@city.nabari.mie.jp
http://www.city.nabari.lg.jp
携帯版 http://www.city.nabari.lg.jp/m_index.htm
バーコード読み取り対応の携帯電話端末から携帯版へ



▶ 主な内容 P2…予防接種、国勢調査、まちかど掲示板 P3…便利です！住基カード P4…8月の相談日程、まちの話題

空襲警報が解除され、運転を見合わせていた電車もようやく運行を再開したのですが、名張駅から来る電車を見ると、後方から米軍機が低空飛行でついてきました。『逃げやなあかん』と思ったのですが、『その場で伏せよ』と学校で教えてもらっていたので、ホームの待合所の裏で飛行機が飛び去るのを伏せて待つことになりました。



井上さんの足や背中には、今も銃弾を受けたあとが残る。

当時小学2年生。小学6年生の兄と赤目口駅行き空襲に遭う。
昭和20年7月24日、朝から空襲警報が出て、小学校は休校でした。親戚のお兄さんが出征するというので、兄と見送りに駅へ行ききました。



井上 進さん(赤目町丈六 73歳)

かになったので、立ち上がろうとしましたが、両足と背中を撃たれしびれて歩くことができませんでした。助けてもらったために、両手でホームの中央に這って出ました。そのとき線路を見ると、架線が切れ火花が散っていました。この光景をなぜか鮮明に覚えています。そのときは、自分のことで精一杯でした。兄のことを考える余裕はなかったですね。兄も銃撃を受け、顔と足を撃たれていました。兄と一緒に上野市(当時)の病院へ行く途中、トラックの荷台で亡くなりました。

若い人は、仲間と話をすることが少ないのではないのでしょうか。仲間とよく話をし、人のことを考えて行動することで、平和な社会を作ってほしいですね。

兄のことを考える余裕はなかった

65年前の夏、赤目口駅が空襲にあったこと、空襲の犠牲者に今号では、赤目口駅の空襲を体験したお二人に話をお聞きしました。時の経過により、戦争を体験した人は少なくなりました。しかし、悲惨な戦争体験を決して風化させてはなりません。夏休みに家族や友人と戦争・平和について考えてみましょう。
☎ 広報対話室 63・7402

昭和20年7月24日

赤目口駅空襲

～あれから65年～



「名張にも戦争があった」
いまわしい戦争の惨事を語り継ぐために戦争体験を持つ人たちの手記が数多く収録されています。
図書館に、他の体験記と一緒に所蔵されています。ぜひ夏休みに読んでみてください。

当時18歳。小学生の妹と、3歳の姪が、赤目口駅で空襲に遭う。
朝ご飯のとき、『空襲警報出たから学校休みや。千代ちゃんも遊べる』と妹しまゑが姪の千代と遊べることを喜んでいたので、思い出します。
わたしは、体調をくずしていたため朝から錦生村(当時)の医院に出かけていましたが、家に帰ると、『えらいこつちや』『ものも何も言わへん』と、しまゑと、千代が空襲に遭ったことを母から聞かされました。妹たちは、神社で遊んでいたようですが、見送りが少ないかもしれないということでも『見送りに行つた』と言われ、赤目口駅へ行き、空襲に遭つたようです。
二人は、小学校の講堂に運ばれたということで、わたしもすぐに小学校へ向かいました。講堂一面に、けが人と亡くなった人が並べられていました。
しまゑと千代を探すと、すでにむしろにくるまれていました。二

隣組の人が戸板に乗せて二人を家まで連れて帰ってくれたのですが、二人の姿を見て両親が『悲しすぎて、涙もでない』と言ったことが今でも心に残っています。戦争で長男、次男は出征し、三女と孫まで亡くした両親はどれだけ辛かっただろうと思うと、戦争はあつてはならないこと、この世から戦争が無くなってほしいと願います。

人とも頭を撃たれ、即死でした。銃弾が後頭部から顔へ貫通していたため、顔ではしまゑ、千代と分らなかったため、着ている服で二人と確認するしかありませんでした。



兄が出征する直前に撮った、兄夫婦と姪そして妹が写った写真。兄は戦死、妹と姪は、赤目口駅空襲で亡くなる。

悲しすぎて、涙もでない

矢口 よしのさん(赤目町丈六 83歳)